

幼稚園の 子どもたち



だいすきなかぞくといっしょに ゆうえんちへ いったきたよ。
いろいろな のりものにのったよ。かんらんしゃにのったり、めりー
ごーらんどにのったりして たのしかったよ。

▲いとう ゆわさん (慶和幼稚園 年長)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

●年間テーマ「親学ノススメ」 ●今号テーマ「楽しく体を動かそう」

親学 ノススメ

親子でふれあい運動遊び

愛知教育大学 教授 小川 英彦

幼児期は、一生を通じて心身の発達の礎で、家庭と園の教育は、子どもたちの人間形成に大きな影響を与えます。中でも、親と子がスキンシップを通してふれあい運動遊びを行うことは、子どもの本能的な欲求を満足させてくれる充実な時間として、子どもの活動意欲を高め、親子の愛情を育み、言葉のコミュニケーションと共にお互いが強いきずなで結ばれることとなります。本号では、幼児期に体を動かすことの大切さについて考えてみましょう。

第一に、どんな子どもでも必ずできる点です。子どもが体を動かしている時は、この子は「どのような動きを好んでいるのかな」とよく見てあげましょう。そして、できる部分を褒め、一緒に楽しみながら新しいことへ挑戦する気持ちを持てるようにしていくことが大切です。できないからといって、親が代わってやってしまっは困ります。そんな時はあたたかく見守る視線が重要です。また、下手だと叱ったり、誰かと比較したりしないことです。子どもが劣等感を持ち、やろうとしなくなってしまうたり、友だちとの遊びの中に積極的に入れなくなったりします。

第二に、子どもと遊ぶ時の注意点です。健康状態の観察は欠かせませんが、安全に対する配慮や環境の整備も大切です。たとえば、のびのびと思い切り動ける服装、運動用具に対しての安全を確

認すること、家の中や庭、時には自然の中といった空間を生かした遊び方の工夫、回数や時間を約束してできるだけ毎日続けることなどがあそうです。

幼児期の体を動かす経験が極端に不足すると、運動技能の発達が十分に行われず、不器用となり、危険から身を守る安全能力も劣ると言われます。子どもは、本来活動的で好奇心に満ち、いろいろな遊びを飽きもせず求めるものです。日々の遊びが発達の源泉であることから、こうした能動性や主体性に注目し、親子で楽しくゆったりと体を動かすふれあい運動遊びを取り入れたいものです。



家庭の日 図画作品



なつやすみに おしいちゃんおばあちゃんのいえへ とまりにきました。つかまえた かぶとむしを てのひらにのせてもらってかんざつしました。つのがりつばで おおきくてかっこよかったです。

▲おざわ みなぎさん (植田幼稚園 年長)



かぞくみんなで ぶどうがりにいったよ。おなかいっぱいになるまで たくさんたべたよ。じぶんでって たべたぶどうは おいしかったよ。またみんなで いきたいな。

▲たまき あんなさん (愛知教育大学附属幼稚園 年中)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

子どもが楽しく体を動かすことを通して

みどりヶ丘幼稚園長
日比野弘嗣

当園では外遊びの時間に園庭に「ドッジボール」のコートを描いています。すると子どもたちが集まって「ドッジボール」が始まります。職員の手が空いていれば、審判をしてあげたり、何人かの職員が相手になってゲームをしたりしますが、職員がいてもいなくても子どもたちは自分たちで「ドッジボール」を始めます。離れたところから見ていると、組分けも自分たちで考え、子どもたちの発想でその都度変えたりしています。誰かがルールを逸脱すると、みんなで「それはずるい!」とすぐに注意が入ります。「自分の意見を通そうとする子」もだんだん丸くなってみんなの話を聞いたり、意見を取り入れたりが自然にできる子に成長して行きます。そのうち年中さんも見よう見まねで仲間に入って来ますが、年長さんは一生懸命にルールを教えています。そして次第に理解し、すっかり戦力になっていきます。こうした活動が毎年繰り返され、「ドッジボール」が途切れた年がありません。仲間意識も強くなり、違う場面でも協力したり、助け合ったりする姿も見られます。始めは「ドッジの線描いて」と頼みに来る子どもたちも、次第に職員が忙しそうだとみると、自分たちで「線」を描いて始めます。子どもたちもよほど困ったことが起きない限り、職員を頼って来ません。見ていると、微

笑ましくもあり、たくましくもあり、楽しそうにやっています。ある年、子どもたちが「お母さんと戦ってみたい」と言い出し、「親子ドッジボール」が始まりました。今年で15年目を迎え、最近はお父さんも巻き込んで「戦っています」。こうした子どもたちの遊びが保護者との触れあいや、保護者同士のつながりにまで発展していくなんて思ってもみませんでした。子どもは遊びの天才ですね。

※今年は異常な暑さのため、しばらく「中止」せざるを得ないのはしかたありませんが、残念なことです。



親子で学ぶことを通した子どもとのつながり

幅下幼稚園 保護者

ついに、最高気温が40度超えをした今年の名古屋。数年前までは“蒸し暑い”が名古屋の気候の特徴だったのが、外へ出ると日差しが肌を刺すというか熱波で焦げると感じる毎日。この気候に合わせて幼稚園でも早くから“泥んこ遊びやプール遊び”などの水遊びが始まった。これにヒントを得て、“長い長い夏休み”は“水遊び”で乗り切ろうと決めた。

パパが休みの日は近くの“市営プール”か“室内プール”に出かけ、パパも一緒に潜ったり、浮き輪に乗って何周も泳いだり、大好きなウォーター滑り台で何度も何度も登ったり滑ったりを繰り返し、くたくたになるまでよく遊び、車の中で“バタン、キュー!”。かわいい寝顔を見ながら私たちも“バタン、キュー!”。

水は冷たく心地よく、普段仕事でなかなか触れ合えないパパとスキンシップもいっぱい出来て、子どもたちはパパのたくましさも肌で感じ取ることができたと思う。この後3回プールに行けて大満足。家でも毎日ベランダによしずをかけて影を作り、目は離せないがビニールプールやお風呂で水鉄砲をしたり、バケツに水をくんだりして楽しく遊び、外で遊べなかった夏休みもなんとか乗り切った。

毎年、お盆は兄夫婦と実家で楽しく過ごす。従兄弟同士プール遊びを満喫した後、兄が器用に体を使ってアクロバットの様にして遊んでくれ、子どもたちは大喜び!それを見ていた母がぼつりと「お兄ちゃん、父さんと同じことしてる」と言った。そういえば、父にぶら下がって、空中ブランコや逆立ち、布団をマットにしてよく遊んでもらったなあと思い出した。小さい頃に体で覚えたことはいつまでも忘れないんだなと実感。これからも子どもたちと一緒にいっぱい体を動かして遊んであげたいと思う1日だった。



子育て Q&A

Q

体を動かすことが苦手な
子どもとの関わり方について、
どうしたらよいでしょうか。



A 運動は、身体によい影響を与えるだけでなく、意欲や気力、対人関係の構築など、幼児の心の発達にもよい影響を与えられています。しかし、「運動しなさい」とか「外で体を動かして遊びなさい」と言うのは簡単ですが、言われるだけでは運動の楽しさは感じられません。また、「〇ちゃんはできるのに、どうしてできないの？頑張りなさい」と比べられたり結果を求められたりすると、うまくできない自分に自信をなくし、その結果運動が嫌いになってしまいます。子どもが「体を動かすことって楽しい」「運動が好き」と心から思えるようになるにはどうしたらいいのでしょうか。

「運動」というと、「何かスポーツをしなくては」と思いがちですが、「幼児期運動指針ガイドブック」（文部科学省）には、「幼児にとっての運動は、楽しく体を動かす遊びを中心に行うことが大切です」とあります。子どもの苦手な食べ物を食べさせるために、その食材の切り方や味付けなどを工夫することがありますが、運動でも、親子で石段をしゃん

けんしながら登ったり、葉っぱが落ちてくるのをキャッチしたりするなど、知らず知らず体を動かし、多様な動きを経験できるようにすることが大切です。親子で一緒に遊べばスキンシップの楽しさも感じられ、「体を動かすことって楽しい」という思いも一層強まるはずで。また、今は生活が便利になっていますので、日ごろから子どもが自分のことを自分でしたり、家のお手伝いをしたりする機会を増やすことも、多様な動きの獲得につながります。そして、「上手になったね」「ありがとう」と褒められると有能感が育ち「またやってみよう」という意欲も高まることで。しょう。

運動への苦手意識は、体力に自信がないこととも関連しています。「歩育」という言葉があり、「歩く」ことも立派な運動です。親子で風景を見たり会話を楽しんだりしながら散歩をするなど、すぐに乗り物を使う習慣を見直し、歩くことを生活に取り入れるように心掛けましょう。親子で地域の運動的な行事やハイキングなどに参加したり、一緒に体を動かすことのできる友達や家族を見付けたりすることもおすすめです。

こんなほん あんなほん 「楽しく体を動かそう」

『ちびすけどっこい』

こばやしえみこ／案
ましませつこ／絵
こくま社（わらべうたえほん）



ちびすけが、動物たちと相撲をとります。勝つのはどっち？「ちびすけどっこい はだかどっこい ふんどしかついで はだかどっこい」の繰り返しの言葉はリズムカルに読むと、楽しさが増すでしょう。

鶴舞中央図書館からの紹介です

『おはいんなさい』

西平あかね／ぶん・え
大日本図書



さっちゃんが大縄跳びで「郵便屋さん、おはいんなさい」を始めると、本物の郵便屋さんが入ってきて、かばんから飛び出した手紙を「いちまい、にまい」と拾い始めました。動物たちもやってきて…。

『こぶたのブルトン あきはうんどうかい』

中川ひろたか／作
市居みか／絵
アリス館



今日は運動会。運動が苦手なブルトンは、ちょっと憂鬱。迎えに来たダルマとイタチとともに、会場に向かいます。玉入れ、綱引きと競技が続く中、ブルトンはパン食い競争で大活躍！

体を動かすって楽しいな！

幼児期に体を動かして遊ぶことは、子どもの体の成長を促し、また楽しさによる心の満足度を高めます。更に、集団遊びを通してルールや社会性を自然に学ぶなど、知的な刺激も期待できます。中には、運動が不得意なお子さんもありますが、頑張った達成感は苦手意識の克服につながります。親子で楽しく取り組みれば、スキンシップにもなるでしょう。

絵本には、相撲や縄跳びのほか、かけっこやボール遊びなど、子どもに身近な運動を題材にしたものが多くあります。絵本で共感した運動の楽しさを実生活で再体験したり、運動の実体験を絵本で追体験したりすると、イメージと現実の相乗効果で楽しさがより深まり、やってみたい気持ちも高まるでしょう。

名古屋市鶴舞中央図書館
児童担当 中村・前田・新藤・金子

TEL:052-741-9811 FAX:052-733-6337

なごやっ子読書イベント



10月は「なごやっ子読書月間」です。
子どもたちが読書に親しむことの大切さや楽しさなどについて知っていたため、10月20日(土)に幼児・児童とその保護者向けの読書のイベントを開催します。

東海テレビのアナウンサーによる歌や音楽を交えた絵本の読み聞かせステージや、子どもと一緒に絵本を楽しむ趣意を伝授する保護者向けの読み聞かせ講座など、普段の読書とは違った本の楽しみ方を体験していただけます。

また、子どもたちに人気の絵本のキャラクター「ノンタン」との記念撮影会や、おすすめの絵本の貸し出しを行う一日図書館、絵本の表紙を使った「えほんバッグ」作りコーナーもあります。

ぜひご家族でお越しください。

開催期間 10月20日(土)
13:00~16:00

会場 ナディアパーク
2階アトリウム・イベントスペース
(中区栄三丁目18-1 市営地下鉄矢場町駅徒歩5分)

費用 無料

主催 なごやっ子読書活動推進実行委員会

問い合わせ先 名古屋市教育委員会生涯学習課管理係
電話 972-3252 FAX 972-4178

家庭の日 図画作品



おとうさんとおかあさんといっしょに どんぐりをひろいにいったよ。ふくろにいっぱい どんぐりをいれて おうちにもってかえたよ。またみんなで どんぐりをひろいに いきたいな。

▲ました れいさん (慶和幼稚園 年長)



てれびで ひまわりばたけを みたよるに かぞくで ひまわりをみにいく ゆめをみました。このえを ばばにみせたら、ひまわりをみにいこうと いてくれて うれしかったです。

▲おだ のぞみさん (滝子幼稚園 年長)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

「家庭教育相談事業」開催のお知らせ

市立幼稚園において保護者を対象に専門家による子育て相談会を開催しています。ぜひお出かけください。

開催日時、会場等は名古屋市公式ウェブサイトでもご覧いただけます。



年	月日	区	幼稚園名	電話番号	年	月日	区	幼稚園名	電話番号	
30	10月15日(月)	天白	植田	803-3108	30	12月 4日(火)	中川	荒子	353-4936	
	10月18日(木)	北	報徳	913-5321		12月 5日(水)	名東	西山台	701-5286	
	11月 1日(木)	北	報徳	913-5321		12月11日(火)	西	第三	561-2348	
	11月 1日(木)	守山	二城	793-3851		12月11日(火)	昭和	吹上	731-8766	
	11月 5日(月)	中川	常磐	361-7133		12月12日(水)	北	楠西	902-2250	
	11月 6日(火)	東	大幸	722-1546		12月14日(金)	西	第三	561-2348	
	11月 6日(火)	中川	荒子	353-4936		12月14日(金)	中川	はとり	432-1221	
	11月 7日(水)	北	楠西	902-2250		12月17日(月)	中川	常磐	361-7133	
	11月 7日(水)	緑	大高	621-6033		12月17日(月)	緑	鳴子	892-2616	
	11月 8日(木)	守山	二城	793-3851		12月17日(月)	名東	梅森坂	703-6644	
	11月12日(月)	瑞穂	高田	871-3808		12月18日(火)	緑	鳴子	892-2616	
	11月15日(木)	中川	春田	301-3610		31	1月10日(木)	西	比良西	502-7441
	11月15日(木)	緑	神の倉	876-6490			1月10日(木)	緑	神の倉	876-6490
	11月16日(金)	東	第一	961-5506			1月15日(火)	東	大幸	722-1546
	11月19日(月)	東	第一	961-5506			1月18日(金)	千種	第二	731-3510
11月28日(水)	北	おりべ	914-2806	1月18日(金)	名東		猪高	773-2210		
11月30日(金)	千種	第二	731-3510	1月21日(月)	緑		桶狭間	621-6018		
11月30日(金)	中川	春田	301-3610	1月24日(木)	瑞穂		高田	871-3808		
12月 3日(月)	北	おりべ	914-2806	2月27日(水)	緑		大高	621-6033		
12月 4日(火)	名東	猪高	773-2210							

編集後記

皆様のご協力のおかげで「幼稚園の子どもたち」No.2が出来上がりました。

今回のテーマは「楽しく体を動かそう」です。心と体は一体とされています。子どもは、日々の生活の中で興味を持ったことに没頭し、自分らしい心と体を自ら獲得していきま。一方に教えられる場面では獲得することは少ないでしょう。例えば砂場で遊んでいて水を流すことを思いつき、何度も離れた水道から水をくんでくる。これも運動につながります。「見て見て…」などと言いながらその活動を楽しむ。楽しく体を動かし友達と関わる中で言葉が豊かになり互いの感じ方の違いに気付いていきます。幼児期後期の子どもたちは、いろいろなことにチャレンジして積極性や、自主性が高まる時期であるといわれています。ですから、大人は、安全な環境を用意し、見守り励まし認めて、喜びが感じられるようにしていくことが楽しく体を動かす上で大切です。

*ご意見ご感想をお待ちしています。係までお寄せください。

●担当／生涯学習課社会教育係
電子メールアドレス
a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。